

議 長	局 長	次 長	係 長	係 長	課 員	担 当

第 36 回議会改革推進会議 会議記録簿

開 催 日	平成 29 年 2 月 13 日 (月)	場 所	特別会議室
開催時間	午前 11 時 03 分～午後 0 時 02 分	休憩時間	時 分～ 時 分 時 分～ 時 分
出席委員	全 員 ・ 欠 席 名 (委員、 委員、 委員)		
その他 出席者		事務局 出席者	澤口道夫事務局長、及川忠則次長、 皆川賢司係長、長内紳悟主査

(適用・要旨)

進行：座長 中平浩志議長

○協議案件

(1) 地酒等普及促進・乾杯条例について

- ・忘新年会シーズンが続いたが、消費の多い式場関係ではまだまだ理解や普及が進んでいないように感じる。今後、議会として働きかけが必要ではないか。(山口健一委員)

- ・大きめのポスター類があればよい。地酒等の販売店や提供店に貼ってあればより消費効果も見込めると思う。予算対応も含めPR手法を考えていく必要がある。(澤里富雄委員)

- ・地酒等が対象ではあるが、最終目的は地産地消にある。「地酒」ばかりがメインで、「等」のジュース類への視点ももっと必要ではないか。また、飲み物に限らず地産地消も合せて発信していく必要があり、展開をどう図っていくかが課題である。(濱欠明宏委員)

- ・議会費において予算措置して取り組むことについてはどうか。(佐々木栄幸委員)

⇒PRも含め行政施策として展開していくのであれば行政部門で予算措置されることが適切かと思う。議会費として活動予算を取って展開することは、機関性質上馴染むかどうか疑問なところもある。(事務局 長内)

- ・ポスターを作成するのであれば、飲み物以外に食べ物も入れてPRしてはどうか。(佐々木栄幸委員)

- ・地酒とそれに合う料理という観点から考えれば、地酒等関係者の他に農協や漁協の方々も含めた先日の講演会や勉強会の企画があってもよい。そこで双方の意見を交わしていくことも効

果的ではないか。(小野寺勝也議員)

・新年交賀会など機会がある度に乾杯条例を紹介しているが、まだまだ認知されていないと感じる。また、会場では乾杯酒は出るが地元のジュース類はほぼない。ノンアルコール飲料としてはウーロン茶がほとんどであることから、地元のジュース類を提供いただけるよう提供店には話をする機会が必要である。

また、議会に関心をもっている市民や地酒等関係者からは評価の声もある。今後、食べ物も含めて進めていければ条例効果が高いと思う。(中平浩志議長)

・商工関係団体の特産品部門や飲食業組合の方々などと、かだつて会議のようなスタイルで意見交換できる機会があればよい。また意見交換終了後に乾杯懇親会を開催してはどうか。(澤里富雄議員)

・漁協や農協の方々を巻き込んで地産地消料理教室を開催してもよいのではないか。(佐々木栄幸議員)

・立法した側として、行政の考え方、特に率直に産業経済部の職員の方々がどのように思っているのか情報交換することも必要ではないか。情報交換によって行政側が地産地消に向けて腰を上げるかもしれないし、議会と行政が協働して地産地消を発信していくことがより効果的と考える。我々議会は理念や方向性を示し、その足元を行政が支えることで成功していくものと考えている。(濱欠明宏議員)

・乾杯条例のような理念型条例は行政側ではなかなか立法しにくい性質のものだと思う。今後、行政側との情報交換や交流が必要と考える。(澤里富雄議員)

・今後、行政側と意見交換・交流の場を設けていくこととする。なお、議会全体として各議員も条例制定のPRに努めていくこととする。

(2) 議会活動チェックシート（進捗評価）について

【議員定数の適正化】

・議会のあり方検討会議が一旦終了したが、今後、発議案待ちということに関しては強行的な流れではないかと感じる。議会基本条例では議会改革推進会議を条例検証組織と位置づけており、条例に沿って議会のあり方検討会議で協議・共有を進めてきたものを、ただ発議案待ちという状況にしておくのはよくない。議会改革推進会議において方向性を決めながら進めていくべきではないか。(濱欠明宏議員)

【災害時の議会体制強化】

・連合審査体制で災害対応を進めたことは評価できる。一方で、12月定例会議における市民センター条例の連合審査については、教育民生委員会は意見を述べたに過ぎず、最終的には総務委員会で採決をしている。今後の連合審査のあり方や委員会付託そのもののあり方を研究していく必要があるのではないか。(濱欠明宏議員)

【ICT利活用による審議・調査の充実】

・ICT利活用やペーパーレス会議はさらに推進していくべきである。今後はペーパーでもほしいという議員は自らデータから紙や写真に印刷できるようにならなければならない。タブレットから印刷する方法など、利用レベルがある程度上がった現段階で再度タブレット研修が必要である。(濱欠明宏議員)

・ある程度全議員がタブレットを使いこなせるレベルになったと思うので、再度タブレット研修を事務局にて企画していただきたい。(山口健一議員)

【議会活動の見える化】

・委員会の公開に関して、視察した上越市議会では委員会動画中継も行っている。予算をかけなくてもできるやり方を研究してはどうか。(上山昭彦議員)

・上越市議会は議会改革度ランキングで全国上位にある。各常任委員会の開催日は分かれており、一日一委員会の開催としていることから、他の常任委員会に属する議員は傍聴ができ内容共有もでき、なおかつ傍聴議員の発言機会も与えている。また、ユーストリームで動画配信を行っているようである。当市議会でも検討すべきではないか。(澤里富雄議員)

⇒前年度の議会活動チェックシートでは、傍聴機会を増やす取組みとして、各常任委員会開催日をそれぞれ別日にして傍聴者が多く入れる特別会議室での開催を計画したが、改選期でもあり実現に至らなかった。同じく前年度のチェックシート上の計画として、PCウェブカメラで委員会撮影し動画配信する取組みを試みたが、一度推進会議をウェブカメラで撮影したところ音質・画質ともに低く、断念したところである。

再度、両取組みについて実現可能かどうか検討・調整を事務局で図ってみる。なお現在、タブレット導入とフェイスブック開設により、タブレット端末で撮影したものを久慈市議会フェイスブックを通じて動画配信が可能な環境になっている。(事務局 長内)

・一日一委員会とすれば各常任委員会は特別会議室のみで開催できることから、まずは特別会議室の見える化を最優先で進めるべきではないか。そうすれば他の議員や市民もタブレットで動画中継を見ることができ、常任委員会の開催のあり方について、会議日程組みを所管する議会運営委員会で協議を進めていくべきはないか。(濱欠明宏議員)

・たとえ委員会開催が1日間から3日間にわたったとしても、当局は所管部署だけが出席することなので、出席調整をすれば実現できることではないか。今後協議を求めていく必要がある。(小野寺勝也議員)

⇒全国的には一日一委員会が主流である。ただし、常任委員会を3日間にわたって開催することとなると、現在の定例日設定ではタイト過ぎるため、もう一週間ぐらい設けないと実現できない。定例日そのものの条例改正協議が伴ってくることから、当局との再協議が必要となってくる。(事務局 長内)

・動画中継にあたっては発言者が映るよう、特別会議室のレイアウトを考える必要がある。例えば、発言者席を設けることも検討する必要があるのではないか。(濱欠明宏議員)

・上越市議会では議員発言席、当局発言席を設け、国会委員会審査のようなレイアウトに工夫しているようである。(澤里富雄議員)

・動画中継となると、数台でのカメラワークが課題になってくるのではないかと。(濱欠明宏議員)

⇒タブレットの音質・画質も相当優れているので、全景が映る位置から定点一カ所撮りでも可能である。タブレット数台で数カ所撮りをする場合には、編集作業が必要となってくることから、編集後の配信ということになってしまう。(事務局 長内)

・前年度の計画時点からはICT環境もかなり充実してきたことから、タブレットを使って試行的に動画中継することとしてはどうか。(中平浩志議長)

・本日の協議内容を各会派持ち帰りの上、次回協議において具体的取組みを推進していくこととする。なお、タブレットによる動画中継について試行的に行うこととする。

(3) 議会改革の推進に関するその他協議

・予算決算の常任委員会化は、通年議会を行っている滝沢市議会でも採用しており、本市議会としても通年会期制を導入した流れの中で必要なことではないかと考える。常任委員の改選時期に向けて、今後さらに検討を進めていきたいと思っている。

また、議員活動の見える化について、市民から議員活動として何をやっているか聞かれることもあり、まだまだ情報発信が足りないと感じる。どのような内容を発信していくべきか検討していく必要がある。(中平浩志議長)

・事務局の資料説明内容について、各会派持ち帰りの上、次回協議を進めることとする。